

「人と共に、人の喜びのために」

現状を変えようと自国の発展を支援するナショナルスタッフ

JICA ドミニカ共和国事務所 ドリス・オルギンさん

JICA は日本だけでなく世界各地に海外拠点があり、日本人スタッフと現地雇用のナショナルスタッフが共に支援活動を行っています。今回お話を伺ったドリス・オルギン(Doris Holguín)さんは、JICA ドミニカ共和国事務所の 22 年目のスタッフです。彼女のキャリアや JICA での活動、そして国際協力への思いについてお聞きしました。

(今回のインタビューはスペイン語で行い、翻訳した上で記事を作成しています)

○国際協力の世界で現状を変える

国の発展やその支援に興味を持ち始めたのは、JICA の前にドミニカ共和国の政府機関で働いていた時だと思います。国際協力を通じて現状を良い方向へ変えて行けることに関心を抱き始めました。そのころ研修員として日本に行く機会があり、日本の素晴らしさに触れることもあったため、偶然新聞を通じて応募したポストが JICA 研修であり、その後 JICA で働くこととなったからも、日本と関わりを持つことをとても嬉しく思いました。

訪日した際には、特に人の礼儀正しさや自己管理能力の高さに感動しました。ドミニカ共和国はカリブにあるラテン文化圏であるため、日本の小さなことまで大切にす文化、例えば歩道の傍に植えられている小さな植物までも大切にすることには驚きました。人やコミュニティを気遣い大切にす習慣がとても素敵だと思いますし、それが今の日本を形成しているのではないかと思います。また、私の国、ドミニカ共和国では日常的に食べる La Bandera Dominicana(日本語訳:ドミニカ共和国の旗)と呼ばれるご飯がとてもおいしく地域ごとの特徴も興味深いです。実は私は毎日スタッフの方が作る日本食の方が健康的なため好んで



外務省と在ドミニカ共和国日本国大使館主催の「ドミニカ共和国と日本の文化の出会い」イベント(写真中央)

食べています。



ラジオ番組でドミニカ共和国での JICA 保健プログラムを宣伝しているドリスさん(奥)

これまで 22 年間 JICA で働いてきて、保健から教育、中小企業の支援やドナーコーディネーションなど様々なことを行ってきました。最近では、今年度終了予定の「北部地域における持続的なコミュニティを基礎とした観光開発のためのメカニズム強化プロジェクト」や、新たに始まる「NCDs 予防・管理のためのプライマリヘルスケア強化プロジェクト」の開始のために、日本からの専門家やコンサルタントの派遣の受け入れを行っています。JICA を通じて日本の文化に触れることができ、日本人と共に働くことは大きなモチベーションにもなっています。

国際協力は国の発展にとっても大切なものであると考えており、自分の国(ドミニカ共和国)や他の似たような境遇にある国の発展を手助けできる仕事にはとてもやりがいを感じます。他国との関わりや課題に対しての様々なアプローチ方法を学ぶことはとても面白いですし、長年働いていく中で仕事の能力だけではなく、人間としても成長できているように感じます。

○国際協力のこれまでとこれから

私が JICA で働き始めた 22 年前と現在とを比べると、常にその時の状況に合わせて国際協力における重点課題がシフトしていると感じます。例えば、新型コロナウイルス感染症を受け予期しないパンデミックへの脆弱性が浮き彫りになったことで、公衆衛生分野における協力の必要性が注目されるようになりました。

また、私が働き始めた頃には、観光や環境への配慮を含めたプロジェクトはほとんど行われていませんでした。しかし、最近では再生可能エネルギーや気候変動対策に対する事業が増えてきていると思います。ドミニカ共和国で言えば、コミュニティと環境に配慮した「北部地域における持続的なコミュニティを基礎とした観光開発のためのメカニズム強化プロジェクト」が良い例です。1980 年代にドミニカ共和国では観光業が盛んになりましたが、欧米から直接観光地のオールインクルーシブ型ホテルに渡航する形態が主流で、自国の人々はその恩恵を受けら

れていないという状況が続いていました。私たち JICA はそのことに問題意識を持ち、環境に配慮しながらコミュニティレベルでの観光開発を支援しています。

今後、気候変動や公衆衛生のほかに、テクノロジーを活用した支援など、さらに異なるアプローチが増えていくのではないかと思います。また、中小企業の支援や効率化も近年特に注目されてきており、日本での成功事例や技術を用いながら今後も続いていくであろうと考えています。



2014年にドミニカ共和国で開催された「第3回 OVOP セミナー」に向けた準備会議(写真中央)

○JICA のナショナルスタッフとして

これからも、私の担当してきた算数・自然科学の教育の不足や機会の不平等性などの課題解決に貢献し続けていきたいと考えています。私の国はまだまだ良くできていると思っておりますし、そのためには JICA との協力は必要であると考えます。特に若者への教育や起業家支援については、今後も積極的に行っていききたいことの一つです。



国際協力の分野で働くにあたり一番大切なことは、目的意識を持つことだと思っています。目的意識がないまま働くことは、時間の無駄だとまで感じます。特にこの国際協力・開発分野では手続きが多く、働いている内に目指すところを見失ってしまうときもあります。何を目的としているのか、そして私たちは様々な人と共に、人の喜びのために働いているということを忘れないでいることが大切です。

ドリス・オルギンさん

「JICA での長年の勤務は、私にとってかけがえのない人生経験であり、一生の宝物です」

聞き手:

本田 詩歩

JICA 中南米部中米・カリブ課インターン

活動期間:2022年8月～2022年9月